

成形圖說

農事部

六

			二二五四九	和書門類
		一七	函	
三〇	册	架		

庫	文	閣	內	
二二五四九	三〇	架	和書類	
一七	函			
三〇	册			

內閣文庫	
番號	和 22549
冊數	30 (6)
函號	196 101



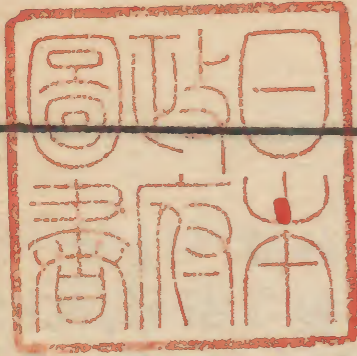
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak 2007 TM Kodak





成形圖說卷之六

目錄

田賦
稅則

明治九年購求

成形圖說卷之六

成形圖說卷之六

農事部 田賦

多知加良

書紀云亦知加良之計也河原多知加良之田力

税と知加良と民の力と田と作多知加良とハ田力

運喜式ハ吟味ハ主税の職あり民の勤と換

智紀收畿内之田税と保知加良と漢ハ正税也租と多

大知加良同凡税と於田租也○天武紀勅ハ天社地社

拾遺ノ諸社封税と供祠具其一分給神主又古語御調古

記○傳曰神の給集にみけき物と受納ハ周禮令諸侯春入貢秋

と功又任土貢即御調り貢ハ于壇禪とハ乃貢

子宗廟ノ物進と武式目ノ土貢以下令先納者悉可

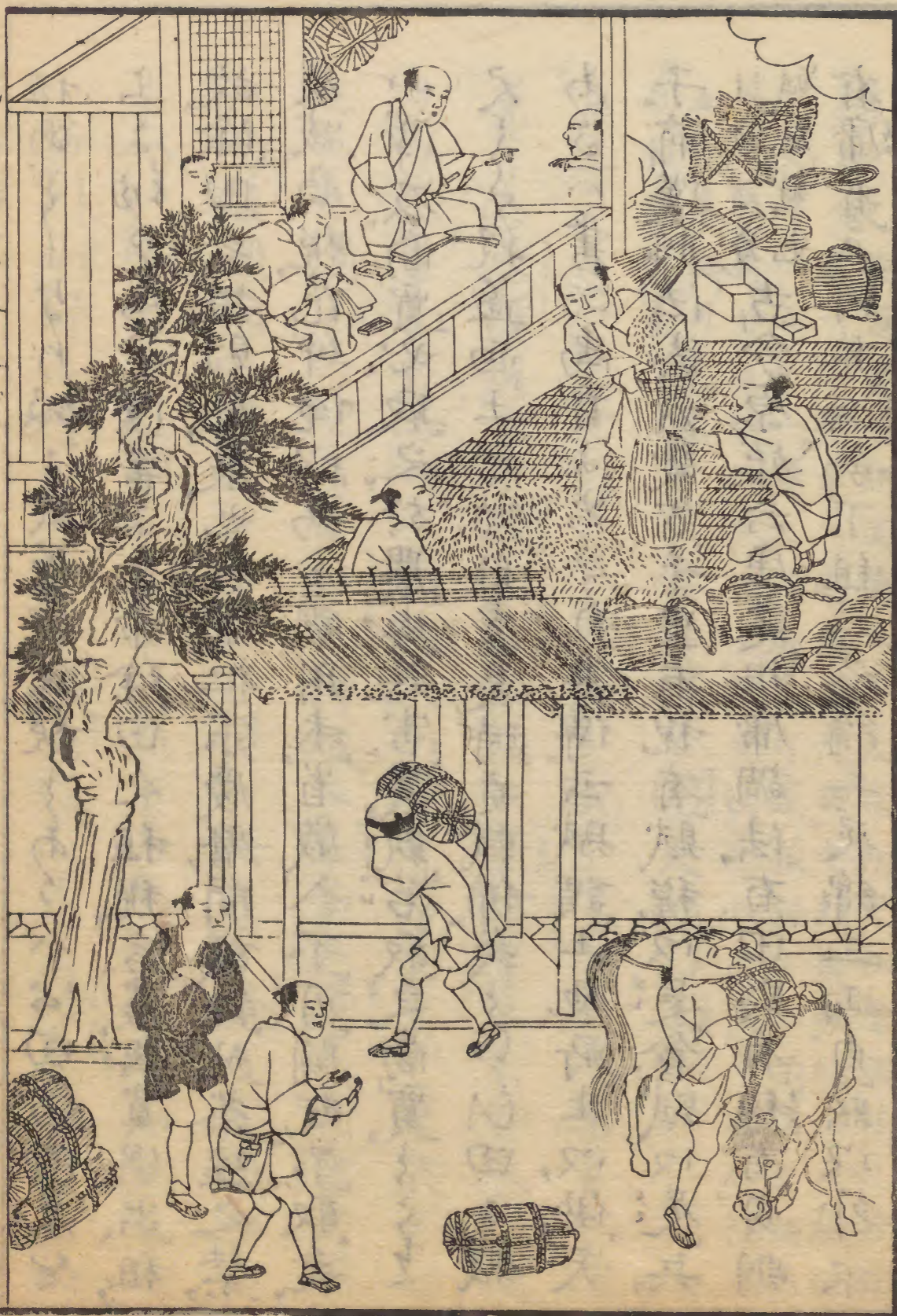
成形圖說卷之六

糺返之凡吾邦の歳貢夏八起四月盡九
 月秋ハ起九月盡明年三月六日と式ハ又
 苞苴と訓ハ大贄ハ皇朝ハ御食津國々々
 種品の貢進御贄ハ常年殿擬供御等由詳
 膳式に諸國貢進御贄ハ常年殿擬供御等由詳
 云々又古事記仁德帝兄弟天下と譲受む
 人の大贄貢者往還ハ大贄と移取む天下
 人の大贄貢者往還ハ大贄と移取む天下
 或ハ其貢と相あむと先帝の遺詔と奉む
 御德行と仁賢と弟あり徳と讓て位即
 物成と日次紀曰百石の中或ハ分七分或ハ二分三分と收
 地子延喜式ハ今字音ハ姓等年貢地子錢以下無沙汰事とらり年貢とハ
 別々收納今字音ハ

田賦 春秋〇説文 賦税 租税 以上史記〇字典凡賦皆
 之總名也 田税 禮王 田租 魏志文帝復頼 年糧 通
 曰賦商曰税 又云宋徳宗時揚炎作兩税法夏 税子 地稅 以上文
 輸不及六月秋輸無過十一月 賦通考
 年助 朝鮮

蕃名レント

夫田地子租あるハ和漢の通規ありて人君之と受て天
 子代て人と膏ふの存とす所ありその財成ハ農夫
 由といへとも其功ハ外造化の力あり故も天子代て人
 と治るもの之と諸民子取ハ固より其理ありいふ
 ハ民皆農ありて今の高賈のくときも是と田地子賦て



四



租ありしなり故に式等に正税とありハ公田の御米と
 上は納くし漢書文帝除田之租税言農與賈俱出租
 故除田之租則勸農也又宋仁宗慶曆間議欲弛茶鹽之禁
 及減商稅范仲淹以為今國用未省歲入不可闕既不取之
 山澤及商賈必取之於農與其害農孰若取之商賈と
 云々蓋西土の始自虞夏時貢賦備矣と云々田子賦
 ありハ書の禹貢よと云々其傳云賦謂土地所生以供天
 子前漢刑法志云畿方千里有稅有賦稅以足食賦以足兵
註賦謂發賦斂財也古今原始云唐定租庸調法有田則有租有身則
 有庸有戶則有調每丁租二石絹二疋綿三兩自茲以外不

得横歛按通鑑唐紀武德二年太宗初定租庸調法凡授田者一歲輸粟二斛稻三升謂之租歲輸絹一疋綾純二丈布加五之一綿三兩麻三斤或輸銀十四兩謂之調用人之力歲計日閏加二日不復日為絹三尺謂之庸加役廿五日免調卅日免調謹按衣食貸財ハ固天地の生所ありて人日租調皆免謹按衣食貸財ハ固天地の生所ありて人
 子主しハ之と云りて諸民に配する奉りありて人
 弟の條理ありと云りて政と云りて政ハ祭法云くして人君親
 々々祭事と云りて時ハ國の大小郡と云りて皆祭事と
 立て生預りの地産と取て神祇に享り天地の生徳と報
 以而後國家の用度と達し百姓の撫育と絶さむ因ハ
 一ハ國司とは國宮宰と云りてその奉祀具ありてその
 ハ海川山野ノ種々の物と横山のぶと積是は是と云

植物とし宗社に供へ祭礼終て法人に頒賜し延喜式に
皇神子奉し餘とば平く聞食むとあるは彛典にて又孝
德紀謂先祭神祇而後應議政事の類亦凡はべし地をく
我太古 天照大神の 皇孫に斯國に授賜して吾齋廷
之稻穂當御於吾兒と勅りて天下萬民の奉貢田穀又種
種の御調物と受納むへや嚴重大詔と彛傳あるとば天
津日嗣と申ありつそ大業以嗣くに統御より始て蓋大
嘗乃禮祭祀此亦此より出て人君天地乃生物と私に
あるをばる乃謹敬明の上下に宣告て行ふ是 皇國
貢獻の大本也上謹敬乃政と天産を奉て下民に施し

あるをばる乃謹敬明の上下に宣告て行ふ是 皇國
貢獻の大本也上謹敬乃政と天産を奉て下民に施し
中漁澤と其怙敢て私と用ひあるをばる蓋人情天然の道
ふしてとるありとて堯舜禹孔子のばるも人にと奉
として世に順祀と書し史周紀に日祭月祀時
享歳貢終王先王之順祀也朱子云稅給宗廟百神之祀天
子奉養百官祿食庶事之費とるなり韃韃天竺と金人
如来の名目と造て存号しといふる帝勅た道の地と
いへども奉祀奉職の通あざるはふし然も天地間の
丸まはるありとるればはるのまはるのまはるを
よはる有司も天産の衣食を以て私め物と考へ違ひ

愛、歎、嗜、好のまゝに興、奪と自由し、目前の者、ハ惠、加
し、まゝも編く國、邑、ハ、神、と、國、用、給、は、ま、及、て、是、派、の
く、苛、刺の政、まゝ、是、先、王、祭、政の、實、と、失、ふ、て、愛、憎、偏
頗の、私、ま、あ、る、が、あ、り、且、又、下、に、興、る、お、も、れ、バ、民、情
ゆ、ら、ま、り、我、修、と、働、く、如、常、ま、節、儉、と、勤、て、甚、く、守、る、ハ、刻
て、赤、貧、ま、し、賤、し、位、より、大、道、て、田、産、と、持、お、と、不、能、貨、財
者、ま、ま、く、の、中、に、仍、る、り、共、ま、ま、下、ま、ま、生、て、ハ、諸、人、と
共、ま、ま、天、産、と、受、る、べ、し、然、れ、ど、も、天、命、を、あ、ら、は、天、の、生、徳
く、之、く、人、智、目、に、冥、て、直、道、と、以、法、と、ま、と、迂、一、ま、し、勤
ま、れ、バ、邪、路、ま、ま、走、て、有、目、私、と、以、以、人、情、離、叛、て、人、君、誠、敬

の、道、と、奉、ふ、と、能、む、この、逆、亂、と、畏、て、乃、刑、罰、の、辟、と、嚴、お
し、威、讓、の、命、と、希、ま、ま、子、を、出、さ、る、ま、奉、法、の、令、田、賦、の、制
之、と、上、ま、取、る、の、を、と、考、へ、遂、て、無、理、の、や、う、と、怨、む、思、ふ
ハ、共、ま、ま、祭、祀、を、奉、順、し、臣、民、と、貴、育、と、ま、の、存、意、と、ま、ま
ざ、れ、バ、也、今、復、え、れ、と、右、ま、統、つ、る、ま、崇、神、紀、曰、官、無、廢、事
下、無、逸、民、教、化、流、行、衆、庶、樂、業、異、俗、重、譯、來、海、外、既、歸、化、是
歲、天、皇、十、二、年、秋、九、月、始、按、人、民、更、科、調、役、此、謂、男、之、弭
調、女、之、手、末、調、蓋、天、皇、光、子、鴻、基、と、治、遠、く、皇、猷、と、張、て
外、國、賓、服、し、天、下、太、平、あり、因、大、田、田、根、子、命、と、以、祭、主、と
し、神、祇、の、圭、田、と、定、む、と、入、り、乃、前、ま、謂、祭、祀、の、實、奉、職

の道其茲も出て我邦租税の始必礼典の賦ありて之
他ハ男女の調膏のこ上も取まひしきり弓弭の調ハ今
乃太刀馬代此おしく手末の調ハ後の手作布の属あり
御鎮座本紀曰男弓弭之物太刀小刀矢楯鉾鹿皮角猪皮
忌鉞忌鋤類是也女手末之物麻桶綿柱天織具荒衣和衣
荷前御調神功卷ハ新羅既ハ服事して毎年貢男女之調
類是也
常以八十船於是高麗百濟二國自来永稱西藩此三韓朝
貢の始ありて亦男女の調と稱するも仁徳紀五十八
年冬十月吳國朝貢受東晉之禪都於江東故此紀書曰吳
國實則清寧紀三年冬十一月海表諸蕃並遣使進調所謂
宋朝也
秦漢華胄歸化しるものありて遂も世に傳て絶むるし

て民田も租ありしをてハ封建の制郡縣の法も今皆沿
革あり抑萬國を修て一人も取まひしきりハ孝徳
天皇も昉より本紀大化元年八月朔詔曰隨天神之所奉
寄方今始將修萬國中遣使者於諸國錄民元數中畧白雉三
年春正月班田既訖凡田長三十步為段十段為町段租稻
ヒトツカ一束半町租稻十五束又調庸の法ハ是より前大化二年
の詔も曰凡絹絶絲綿並隨郷土所出田一町絹一丈四町
成足ナセハラフ高謂之足倍長四丈廣二尺半絶二丈二町成足長廣
同絹布四丈長同絹絶一町成端別枚戸別之調皆布一丈
二尺凡調副物鹽贄亦隨郷土所出中畧以五十戸充仕丁一

人之粮庸布一丈二尺庸米五斗凡兵者人身輸刀甲弓矢
 幡鼓（ハタタカ）あり令義解曰段地獲稻五十束束稻春得米五升
 即於町者須得五百束也（是上田一町の率あり五百束ハ
 四百束ハ廿石十束の搗束五斗也下田三百束ハ十五石
 百束の搗束五石也下田廿束ハ二石五斗也凡稻一
 束と云ハ一把と云ハ二合と云ハ一斗あり人の片手三握と一把
 ハ二握あり一斗ハ二斗あり一斗ハ二斗あり一斗ハ二斗あり
 春て得米とハ一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり
 の積子稲五百束と得米と云ハ一斗あり一斗あり一斗あり
 ちどあり而孝徳紀の租法一町の粗稲十五束と云ハ
 ぐ常米ふして七斗五升也二十五斛の内あり僅七斗五
 升ちど年貢納るふと云ハ一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり

里と少き田賦ありき三代格ハ令前租法熟田五十代
 租稻一束五把得米一升此大升也と云ハ一斗あり一斗あり
 歩と為五十代とありて五十代ハ即一段と云ハ一斗あり一斗あり
 紀の租法と云ハ一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり
 諸書に大升ハ三升と受と云ハ減大升ハ三升ハ八の倍と云ハ
 格子凡稲一束五把ハ一段の租あり一町ハ七斗五合也古
 斗五升と云ハ一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり
 法云くと云ハ一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり
 紀文武天皇慶雲三年遣使七道始田租法町十五束と
 云ハ一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり
 五束法と云ハ一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり一斗あり
 又元明紀和銅

六年二月始制調庸義倉等類五條同七年官符カケテ子カケテ絶六丈為足調布四丈二尺為端庸布二丈八尺為端商布二丈五尺為端カケテ去れば是亦大化調庸の足端寸尺と增長カケテめられしやればも元正紀養老六年の官符カケテ子カケテ公私出舉取利十分之一とありしは當時尚薄税とありし書紀通證曰 本朝之制以封建也舊矣至 孝德朝始立郡縣之制平治以降漸復為建國然守尉非王人鎮制仍戰國雖規模相似而其去古也遠矣秦六國と滅して天下と併て郡縣とありしころハ六國の諸侯皆讎敵あり帝ハ我ハ國家社稷襲封の土地と兼并カケテて其賦税と一人と納カケテりや

子ありしハハのりき愛法とありしと白石史論カケテハハいしとありし孝德紀の田租ハ一町カケテ子米七斗餘絹一丈布一端とありしバ其民カケテ子麻カケテとありの租法ハ西土三代の時ありと薄カケテしと輕斂カケテあり拘儒曲士周の九一税法と天下無双の事カケテと稱カケテりありしハ我カケテガ邦典カケテ子惜カケテのカケテありし後田賦ハ和漢カケテと古今カケテ大カケテ子愛改カケテありしと考カケテへしあり國史延曆十六年詔曰古者什一而税謂之正中三代因循頌戲作矣國家薄征利農勤恤民隱是以制令之日田一町租定為二十二束其後有勅處分減為一十五束云々是即白雉慶雲の制とあり 桓武帝の詔カケテ古者什一の税とありしは

慶雲の東田賦又重くありしや按よ弘仁式よ上田一
段、地子十束、中田一段八束、下田一段六束、下田一段三
束とあり是ハ以前の租法一町よ十五束とありし準す
視みまバ一段よ一束の地子ハ甚しき重征しあり蓋調庸の
賦カと除くその賦法ありしや延喜主税式よ據よ凡公
田獲稻上田五百束、中田四百束、下田三百束、下々田一百
五十束、地子各依田品令輸五分之一若總計國內所輸不
滿十分之九者勘出令填但不堪佃田聽除十分之二其租
一段穀一斗五升町別一石五斗皆令管人輸之とあり式
の時ハ五ふの一の納あり自後ヨリよりハ天運漸く澆季よ

務ツカて世の事跡文おして事無もく運運用用廣くく繁くく模倣の
俗起りしもや始慶雲の頃より唐國の制度よに倣なひ
むふしもと出来つつて文事よのを拘とりまひくあま
めまりて皇祖親戎装をあらわせ詰詰同同流流つつるるの天威を
ととろろへへああららししててささののめめででささいいとときき聖代と
中中せせしし後後ままもも將門將氏氏友友がが送送侍侍東西西にに報報ままるるせ
ししハ時運の志志くくししるる所所ととハハ中中ああぐぐるる上文華は流
て武事を次とし朝憲の海外に震がぶぶかかゆゆ志志ああららむむどどや
是是に就て世の訥りききああららむむ也也抑抑文と師とせせどど武を
てて之を當當世に終むむむびびままりり也也抑抑文と師とせせどど武を
のの尚尚ぶぶ武を勇勇よりより發發去去とと多多しし個個寄寄氣氣ばばののりりてて通通理理をを學學かかれ

八血健暴勇ふして北陸の衆と免かれ頃又又學の
 子備備懦緩辯僂みて大事を盡がごとし中昔人の行
 こそくあぐり武士の才執る家子生進後めごと行
 かせど勇士ハ義とまんして恥と志重外と報して名と
 多しハ武士よりおま善道とさりた孝と存びる志ハ
 きよのやうにまるとんれ智仁勇ハ天性ハ備るとと
 子理を知る計みてま業にうとれれば孝も勇も権も
 こと王室の式微一頃の繪紳は多く武家より昇進
 たるゆりて平忠なぶとき風雅ささくけりりりり
 富士の裾野は軍ごちし水禽の羽着に藝進京まで
 止るご然ふれ一とんよ死と畏るごりりりりりり
 平家奢修の中子長より思ハ第ての所他又柔まると粗
 ひ義氣の涵養厚く武事ようごりりりりりりりりり
 之と在昔子考る子上天子の御身をど権儀一く洪平小
 してと婦乃動止と武夫のおとく内宛まどわのりり
 疎くまより天の永命とと長くめだたかりりりりり
 後鳥羽天皇女嶺も優はおせし上后妃采女とささ
 まひ壽永は寶劍の没ぬりと惜ませられ親のりりり
 一送るごい初て西面の侍とをねハ皇威の陸夷と歎

かせあひ北條氏が不逞と誹鋤まるととの醒るもや
 出るんごごごごごごごごごごごごごごごごご
 おいごごごごごごごごごごごごごごごごごご
 條氏觀の禍心と包蔵し源將軍の後世とみりりりり
 奸殺しおのま権柄は募んが為帝乃乗一あふ春の所領
 と奪い送練と引出しゆく其後君も忠忠んと慈謀せし
 不どに帝既子征討の由と兼りりりりりりりりりり
 也と云て直子兵と若一涼子攻上りりりりりりりり
 唯し天子親う鳳輦と取攻下りりりりりりりりりり
 多胃と免て衆と斧鉞の下子突りりりりりりりりり
 せめて日本鬼もいふあるごごごごごごごごごご
 影みハ南朝子臣事糾々ハ北京子羈縻せられりりり
 とんよ配あしハ幾もあかりりりりりりりりりりり
 塔宮勅答やさせ玉いて四時上威嚴さくハ下必暴慢
 乃意あるごごごごごごごごごごごごごごごごご
 ハ今のをより臣若判繁深衣の解よ飯し虎賁猛將の威
 と控バ武子控て朝家と全せし人誰ぞやと何りりりり
 子帝是利氏が諛と信しごごごごごごごごごごごご
 妻しあごごごごごごごごごごごごごごごごごご
 成形圖說卷之六
 十二

みハ楠中將と第一とし次子新田義貞とつて義貞は
多しと餘補よりいこれありされは義貞こそこの武將
よておはしられども勿論の内侍は義貞と惜て大事の操
とたぐししるるを勇断なきは似て軍功空しく後の律と
就されし楠正行の高師直が吉野の宮女と溢出し
と近付て取返され志うげ敵感おて其の宮女とす
御りしと武人のハもふ何とを思ふらぬとのみハ一
に一假の契と結ばいべきとて固く辯て交付りざりし
ハ義貞の法と無隔せき是通義と守り忠孝の勇烈
ふ所ハ學問演武あり故に治る也とて送客との
武事と急りぬ進げ士氣逸豫に安して徳の遊藝も目と
曠うし筋骨と勞れ心志と困りしとふく奈と好之貨
と弄て風俗日と顔て商賈と益を争ひし近き
節修のより書まわしし時芥とつてこの人恃ハ移り
易きこの少て城と吾回志る交りてと不承親めり
よは其人の風儀と形い高れしは何れもねど何の内
う其風は移るこのよては君上と仰きなる時風儀ハ高
るらり吹おろそ風ののごとく禁の事はいづれも
ていなきよて人君時守生るは其の質素を好む有りて

み此浮華此風儀よかゞあきまをが時ハ下まで
世と飾と厚めて質素と勤る事よハ文學の進り得ハ
奢風流よありれど海客が義ハ人の心と根を
節侯の政ハ費用の起ると功と法と好まより根又文武
と中より車此多輪乃出ると一と勝てハ政ハ行進
中よハ文ハ漢かまきと物ハ道理と辨しハ通中忍人の
よあきる人さ一もよ時よハ一ハ急とゆるも下と取
兼不中ハ其しハ道理よくき人ハ以てと取の元根次
穿あて一生と全くはる事也武の道ハ弓馬剣槍の技
長し不中ハ上ハの宰相次第は用と成るとあき
子ゆえ中ハ下ハ押あて政どしてハあきぬ
道理よ解ある人ハ必分お忍の務とよし此義の立身
出世ハ忍ぶ中ハ技藝と等とる人ハ飲食宿夜の物好
く未練ささしき進程ハ自然と政さぬとのあり
あともくえ其好この所文と武との二乃通より出
きて人の風儀也の二よりい是武乃喜ハぬれハ自然と
兼在風流よありて果ハ情弱の棄質ハ隔るあき
りり凡國ハ風あり土ハ俗あり中むりハ俗の國
土の風俗とよて其の風俗ハ俗ありハ俗ありハ俗あり
よのせしれハ俗ハ似して此と其ふとあき

皇國 推古以前數百年世文字もよく 禮制も倭らざれと
 とせ世の人から乃とわかれてせざるに治まは天地の宥
 へ自然乃人通ありて情もよかあひしがゆゑあつるを
 孰中 諸尊祓除の功化より清浄なるをさうらる風儀
 みて死穢と忌と乃俗習なりとさうらる西土の人ハ
 不潔なるを多浴とせざるを掃らして寸布を湯に浸
 し皮膚を拭ひふくのまじり或厠を塗てを油と製ゆが
 ると有り或ハ脚布盤にて菓子と油へ食物と製ゆが
 彼の志くせたり亦 邦にてハいりありつて掃らる
 より虫てみ水つらるゝのいりなきは掃らる
 る事せかし又唐人ハ万は氣弱くは掃らるは
 とんてハ博おのつき友律の死しるはは掃らるは
 ハ彼ハ愛惜の厚やといふは其残忍性なるハ日本
 といはくまきりて人と事なると動すハは三族五族
 より朋友まきりてく連累つて又生ふるは肉と骨
 里或ハ人せ煮殺し車にて殺るなどの刑罰あり其
 室ハ入て久しけ連々其香を焚えげ鮑魚の肆ハ常住
 此ハ其腥と忘るの樂とて其風習の志と述すハ
 よしとせ世ともあつるや我 邦ハたしてハ籟
 とも快とせざるは波ハ馬牛と畜と常の禮と
 又

君と弑殺して物とせざるハいりやと田氏曰
 西土の風文餘ありて武さるるハ歴史もは稱して事機
 としやまたする去とあまはるゝ力量もはれは底して
 一々も味も有る人ども日本ハ人との相撲としてハ
 も腹て怒とらみ聞見録曰唐人ハ力を格て日本ハ劣る
 去と空居り彼地までと日本人一人ハ七八人と出
 ると一々又此方の人の肩は二分ハ七さうさう
 と擔てを汗を流し大息と嘆き僅ハ十歩二十歩ハ
 能ハ戀息ありて熱して勢動寛慢なるはりの多かり
 去りされハ風土の俗のまじりたるは性候も亦各
 事ありとせざる唯其の生つる所のまはる地より
 亦出て帝級思慕の情ハ各同文筆に拘るおとすハ
 亦ハ中世とていへば凡眼ハ其色と悦ハ美は差
 亦あきかぶく女の好とては行乃悦や月乃夜ハと
 思ひ通してを志し去るとは阿は生立とる所ハ君臣
 父子乃恩愛思慕を我去ると天然ハ生立とる所ハ君
 心しるれがはまき多く人阿ハハハハハハハハハハハ
 心え或ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 心の根くよし阿ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 心る根くよし阿ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

成形圖説卷之六

下は取上げを上げ上は人の仕度をもつてあるべし
又礼儀も一ごとく人徳もあつていふべし
蓄人のあつて久くは意欲しては互に香をりて
ついでして大猫の性といふやいれと香の乳後
はハ何ぞも人徳をりてと人徳をりて枕席に
あつては人の情実をりしりては枕席に
せやうぞと策でたつてつては枕席に
礼儀あり上は男女の差あるそのありては
ハ夫婦互に慰むるのありては夫婦の
さいもれぞと義公の言もいふべし
てとては敢てせられぬは恐れぬ其ハ恥
一といふは後ほりて心かすは恥
この事乃佛おぬ氣まは言はれぬ
時武事と以法がれば上は向く
非の懲りておさへつあるが而武の
て禁制刑罰ともいふべし
セハハ地かす生ぬきありは治
心滅に暇つき居る地を済すおの
志くはあふ前はさして利は潔と
動は化され馬子と君と弒まぬ

る聖徳太子あつてのるを文飾憲法と
と生きたる本根をつらぬけては
子事孫文あつてのる事 かくて
鑑に實朝の時関東諸御領乃貢可被免三分二
一所次第巡儀をいしと何里是ハ一所づ
免して諸領を一度免とよハ一
と百姓は共あると特の令あつては
免るべし或書に楠中好八十
とありは時徳國の百姓子集して
利氏の時より四かふとして
姓は姓するの法を何つり異本
成形圖說卷之六
十五

護として五十の一の軍賦と輸せしと高經の執事たる
よ及びまよ令として二十の一なり是れまよの
まよと法ねまよへる將軍家譜に尊氏使細川和氏監諸國
租稅之事、和氏悉押公家之領地、以為武士軍忠之食祿、於
是師直等私領皆倣和氏之所為、撰關大臣以下諸公家皆
到師直宅、歎訴之、尊氏直義聞之、僅分授領地、まよまよ後
文祿四年豐太閤九條法制の中、天下之賦稅三分、二
者地頭取之、三分一者百姓自取之、まよまよ
當時の田賦は田一畝に稲一石六斗粟八一石二斗と首
として村の位次小二斗より小賦又下る村の畑ハ下村

乃畠より一斗下りまよ賦る也、まよ賦米の斗ハ々、斗寸
法内矩、闊方四寸九分、深二寸七分、まよとして梁りけし、深小
梁城あり、收米賦あり、此まよ由て、親る小延喜の頃ハ一
町に一石五斗の租賦あり、まよ中まよよりハ僅一畝に一
石六斗の稅額あり、まよ一畝に十畝をせし、まよまよ一
町に付まよまよ一町の一畝をまよ一畝に一町賦より、まよ
一斗まよの租として、まよ一町に付まよは十石を斗を、まよ
まよの益あり、まよ益是れ、まよまよは、まよ命の、まよ命も
租とや、まよまよは、まよと、まよまよの、まよ取るの、賦あり、
まよまよの賦あり、まよの、まよあり、○孝謙紀寶字二年

勅曰吏者民之本也數遷易則民不安居久積習則民知所
從頃年國司交替皆以四年為限斯則適足勞民自今以後
宣以六載為限省送故迎新之費按王制云諸侯聘於天子
比年一小聘三年一大聘
五年一朝朱註謂焚賜厚而納
貢薄納貢從薄不匱其財也承久記曰日本國中侍
ども昔ハ三年の大番として一期乃大事とあ立郎從眷屬
よあるまで是と晴とより志うども力をて下りし時ハ
あいつら又つらう衣笠とやまかけ徒跣までありしと
あり是京の漸直は産材と費し後ハ立もつらぬやう
に費しして帰國せしつら或書よじり糧倉よ清
也一年して在國三年の限程あり三まゝの出息とて

一年参直の費給と支ふは三年の出息もて一年の
調度と償ぐくまりしとて一はる乱世の初ハ百姓を
業とまふがゆゑよ山野は逋匿て山寇跡伏とて人
と掠劫くもつて下くハ是として謀叛一揆と企ぐ
きやうに民とあはすりたり税法をまぐまり又饑乏れ
ハ勢とまし勢と抑ゆは怨恨と銜て乱ふ及ぶるよ
家の餘地と押へりとも是ハ唐の樂天が養鷹篇よ飽
きしよば殺さぬとれハ別ども人事とはとつたるよ
似て野三葉の湖ともいふし終は徳仁の亂よ入て
是利氏の世と終るまで生民の塗炭極まりあふりして

金革と在て風子梳里雨よ浴より將士のをれと探め國
 城やりの大事は要するゆゑに兵は武功を建てて于城の堪
 ざる者より費はせし又戦ふことも農業ハ一日として
 休息をなすべしされども兵士の所と向又も其の要
 城守り敵兵擯はせしむればその報報懸隔あり世固より
 治安は属すといへども士類の筆田地をさすものハ上よ
 里某くの福城給て扶持せしはむに上の租城徴ふと
 弥急よして農夫の勤勞成就ハ軍國を愛するつとま
 一是を兵農二行ふもして治乱俗城是よりなりあり
 治より況や大化紀元より享和改元よままで蓋一子一

百五十有餘歳まぐ之ーとらぶし今代邦君文武の職
 と兼國民と子育やるは寔に大家盛徳の至り兼平の
 極より次至し夫氣運一たび變して前代の礼樂復用
 登りては唯南を乃務城知まむ民各をふとゆるり急
 るハましとらふしとほまらり

取箇 和訓栞取數の義ありとべし故に箇の字を用う邦註
 箇ハ為枚數ともいふなり或曰取所あり今之と所務
 と云所と畧てかとも在所と何れか住處と須臾か
 云の例あり今按し即取毛とあり取毛といふハ考て
 るべし
 取毛 毛ハ穀あり諸國風土記より幾毛田幾毛取の
 事ありと云ふと凶年乃租とま毛取ありといふ事

税則 文獻 通考 等則 大學衍義 科則 明會典
 藩名

税則 文獻 通考 等則 大學衍義 科則 明會典

高結 年貢の額
 定代 代々の
 免 東鑑頼朝
 免 東鑑頼朝
 免 東鑑頼朝

免 東鑑頼朝

升と齋て糙米シロコメよりハ合或ハ五合とある大概ハ五合
 ありしあり俗名之は建磨と云されば田一段の成福一
 歩一升積まれハ叔ハ三石六斗積まうして一石六斗五
 里持統紀ハ田租口賦ヒトコトシキあり一石一人分の額あり凡一
 年三百六十日あれば一日一人ハ五合をの含前あり
 又昔ハ一段と三百六十歩とし又仕官の稟祿ノイカラとも一段
 の命とありともいり厘取段取ともハ此著法より出
 たりなり固本録曰一升毛一坪是と定率と云一升毛五
 分取ハ七斗五升也九合毛ハ九斗七升也今也
 七斗五升九合毛ハ八斗七升也次第くハ七斗五
 斗七升也

合寄あり又中田盛二下十三ありば云ふれよ六斗五升
 下田十一ありば五斗五升右いづれも九合毛ハ九斗七
 升八合毛ハ八斗七升也但定法高ハ五斗七升一升毛乃
 九斗五升〇又取箇見賦の事ハ石盛と云ふ叔と料カキて
 地の位と賦と叔と量と減て租米ナシコメ決定の名より上田十
 五盛一段ハ一斗五升中田十三盛一段ハ一斗三升下田
 十一盛一段ハ一斗一升下田九升也上田の斛盛一
 石五斗この穀一坪ハ一升あれば一段ハ三石あり建磨
 して来一石六斗ともは是と云ふ納あり七斗五升
 の宛たり是ハ一步三百歩の積りして云あり四石五斗

の時ハ方の一石五斗は四斗とくけて三斗九と云ハ四斗
割て四斗と云ハ税六斗と云ハ民債貫行日田畑の斗代石盛ハ
塩地の時一石五斗土五斗バ十石盛と一石五斗何と
バ十、二盛と名付此九箇の法四斗六氏又六斗五氏九
何り云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
あして上は換量とく下は積の法は云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
代ハ兩^{小判金}十^目を石六斗代とて永納とし上斗の九より
と下斗と云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
又の積兩斗と云云云斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗

なる仙臺五石代米澤^カの代此の所々に替り申候所也
其條ハね違なき今云云々の有毛取と云云ハ昔ハ稀矣
里しと云地方掛の人法法は一統五分くの取と云云
云々々の取ハ米名おとハ二割として五斗ハ米五
斗ハ取はとて楸強^ノ黨代家内書料と云云ハ地面
お付と云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
浅寄作得の内より出せば名目と云ハ田村を姓あり然
其田隣の村ハ漸ぶら〜田村と云ハ常々云々云々し村役
人の心は云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
と云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云
雲云の上畑一石一二斗ハ元重と云云云云云云云云云云云

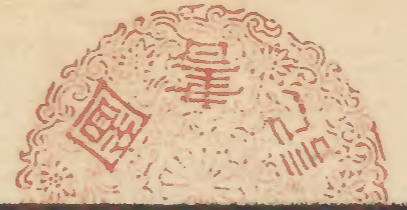
糞代と上方ハ根二十畝程あり其代ハ金一分計かくふ
といつてむとと存程の違ハたゞ其代東まで上畑の取
申の取も渡さるが如く上方と園東と地面の位ハ上と
申程の違ハ有等の申さるに穀穀とされば園東の違
し然も上方百姓ハ他丁寧城等し餘方の他ハ大抵
さよふ家もて土地の衆とハたゞ免相亦各強し
東よてハ少免強されバぐりくのろい言乃て耕
作し以て入る免高くあらバ一ノ御厨て休ま耕
益し其代ハ田多き村ハ百姓等もたゞ上方ハ田多
村方の猪あよし是上方里某の遠とハたゞ園東
曰根納の時根三百目あは石三升の位ハ米と石ハ
升の米と引相場五十四目は石三升の位ハ米と石ハ
米夫年一石一斗一升五十四目とかけ其も又一石一
割と加ハ一石一斗一升五十四目とかけ其も又一石一
省根三百目と割曰石九斗一升 ○越石とハ百石の村
曰合の元米九斗九斗とてし
て段別十町あり内五十石此段別五町ハ御料也又五
十石此段別五町ハ私領あり是も甲乙不足ありれば

越石ハあし一方不足ありて其不足の方ハ御領より
私領の方ハ其代ハ御料より括して越石と云村より村
つとさして越石と云又御米地十石分持と不足より
御料の方ハ或ハ五石三石米と出さるも越石といふ越
石ハ物産計も高掛法段ハ出ど ○税則の墜降と云
おと先々村の上中下乃三等と説決は此地の上中下乃
三等とみまぐし固て定代も高と定るもとその他ハ肥瘠
其村の盛衰海陸の運輸都鄙の遠を又ハ麦粟の多寡
して産業の豊と約と糶米の多寡もと宗謀して附穀の
輕重優威の祝跡もも換り辨一定じる益き事あり凡穀

八季成熟易くさる地より次く擬ふるなり
 て始附穀と完ひつと何さるる又年より不
 熟して水旱等の災何さる地より災の多少と審察し熟不
 熟の年数と計て中ふと孰て附穀と完ひつと何さるる
 と一里又穀ハ持地の後席上ふと深ひてと各とるる
 と何り然とと波此土宜越較考てよく附穀の多少と志
 りて山次愈し平壤録云秀吉將薩摩田地丈量起税以京
 倭攝之至於肥前肥後是謂文祿の賦法もて其賦ハ村軍
 の上中下を子回一畝は米一斛と租とし市地ハ一斛之
 斗と租と次但上中下の差何里又官所ハ租なし
莊屋名
之の如

是一段は米一斛元の賦と畑高は加くとの
 法あるれとれども當今とる治華差何り據は延喜
 主税式は五畿七道の諸国大上中下に分て之と四方は
 配る遠近中乃制何り凡諸國貢調庸者越後佐渡隱岐三
 國並限明年七月長門國限四月伊豫土佐國限二月遠國
 自餘如令其陸奥出羽兩國便納當國西海道納太宰府
 其出納帳並附送從後令ハ令よんり又書島貢云
 正税帳使申送と從後令ハ令よんり又書島貢云
 百里賦納總曰總未本全曰全二百里納銚曰銚半稟也曰銚三百里納結服
 半稟去曰結四百里粟五百里米註粟穀也内百里為最近故并禾
 本總賦之外百里次之只刈禾半稟納也外百里又次之去

藁麁皮納也外百里為遠去其穗而納穀外百里為尤遠去
 其穀而納米益量其地之遠近而為納賦之輕重精麁也是
 々いといふ世界の遠通といふ賦の輕重と參定之法
 あり國語孔子云先王制土籍田以力而砥其遠近賦里以
 入而量其有無任力以夫而議其老幼といふはこれし是
 分西土の田税ハ諸省各異其他の厚薄肥瘠を依て收穀
 の多寡税課の輕重各一といふといふれども大抵元法
 則よりいへば十八史畧云元以耶律楚材言始定
 天下賦税上田每畝税三升中田二升半下田二升水田一
 畝五升高税三十分之一五戸出絲一斤以給諸王功臣湯



沐之賜鹽每銀一兩四十斤水為定額今浙江一處の田穀
 收量は上等の田ハ畝毎小穀子と收ふといふ精米と
 做ふといふ石納粟銀三錢納米五升といふ中等の田ハ畝毎
 小穀子と收ふといふ石精米做ふといふ石五斗納粟銀一
 錢二分納米二升といふ下等の田毎畝小穀子と收ふといふ
 石精米做ふといふ石納粟銀一錢納米一升五合といふ
 凡唐山官府は用部升其徑四寸三分有奇深二寸零
 五厘有奇是是是一升と盛の量也此方の京量といふ
 計に五合ハ勺四抄七撮といふの實積あり故に唐山の一
 石ハ此方の五斗八升四合七勺より多きはあり候ハ量の部
 小計右之等の田地收穀異は課税と此方の畝法升法よ
 て一段の積めし算するふ上田一段小穀京量より六

石一斗二升半磨りして三石六升ちりどもて上納銀五錢
二斗二厘餘米五升の合あり申田一畝に穀京量より五
石一斗半磨りして二石六斗五升半納銀二錢九厘餘米
二升半あり申田一畝に穀京量より二石八升半磨りし
て二石四斗半納銀一錢七分四厘餘米一升六合あり
是即我上世延喜式の受納の則と合し今之と上世と
推し小漢興ておもく秦の爰法書と焚き斂越重し
て民と云ふふし貪かきめく下さるるの或政と評し
或兵起るといふわくもいふもいふもいふも是反て秦乃
運二石六斗半をくして自滅と指く所ありと故に漢乃祚

越後くまぐく租斂の輕きこと三代といつども又慚がは
らあり周公謹云自井田之法癯賦名曰斂民幾不聊生
獨西漢為最輕非惟後世不可及雖三代亦不及焉自高惠
以來十五稅一文帝再行賜半租之令至十三年乃盡除而
不收自是之後守之不易重之以災傷免租初郡無稅行軍
勞苦者給復陂湖園池假貧民者勿租賦又至於即位免祥
瑞免行事免民資不滿二萬免而逋租之民又時貸焉何與
民之多耶此三代而下享國所以獨久者蓋有以也文献通
考云賦稅必視田畝乃古今不可易之法三代之貢助徹亦
只視田而賦之未嘗別有戶口之賦蓋雖授人以田而未嘗

別有戸賦者三代也不授人以田而輕其戸賦者兩漢也賦之重者已不可復輕遂至重為民病則自魏至唐之中葉也今清の明の代は蓋亦漢の租法と畧相似たり韓事品彙曰朝鮮ハ毎女都裏より八道一敬差官より一人役人と差下して田作と見分つて凶年ハ八年貢用捨わり運上ハ十分の七をれとせ敬差官ハ正て正道ありと擇て云付る也集義外書曰本邦王代ハつとよ及むと民家の代と歳とを貢法は用とせり古乃制の殘り事と云れぬあるは皆十一の貢ハ過は日本此土地ハ廿田乃法ハ用とせりともろくは日本乃土地

の損成新まゝハ皆貢法と用たり或同今乃製と云ふ分より田ハ五分とあり六分地とあり今日本は十一の法は用おハ大分少分ともハ武士ハ一年を貢とせり却て私の課ともせし答も田ハ六分にして五分とあり田ハ五分とあり云ハ上田とせり或入道ハ田とあり水田落セバ富ハ成事能来よりも貢と来て田まハ八年貢とあり也中田ハ六分とあり下田ハ十分とあり二斗とあり八斗とあり姓とありハ五分とありハ農とありハ一としてこれと軍級とも民のより出たり武士ともとの

地土とくもそのむらあり後のごころ城下へあぐ
 屋敷とまごみこころハあつちあり士と民とあられ
 ずして十の一城出しこりあは士城扶持する如くして
 ハいごころあつち茶儉質素にして騎舎あつちバはしんえ
 あり十のあつちみこころあつちハ士と民とあられて士
 城上より扶持するゆゑあつちあつち扶持切あつち
 て多くあつちあつち十のあつちあつち十のあつち
 とも不足農より兵あつちあつち民奴僕あつちあつちあつち
 いあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 るあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

越後ものにあるむらし○或向農民を業よりごころ嬭逸は
 奔里を家自然は不辨はあつちあつちあつちあつちあつち
 とくごころあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 屋の白民初会はあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 おのあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 甲ごころあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 むづきあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 の基なとあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 どもくあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

て手と拱し^{タカク}游惰の生^{ナキハヒ}と好ハ是一端の事ありて早老人
情ハ別^{ハレ}く^{ハレ}る^{ハレ}の^{ハレ}安しなれ^{ハレ}が^{ハレ}は^{ハレ}苦む^{ハレ}何^{ハレ}を^{ハレ}本業と^{ハレ}捨て^{ハレ}別
ざ^{ハレ}る^{ハレ}奔^{ハレ}し^{ハレ}や^{ハレ}従^{ハレ}来^{ハレ}諸^{ハレ}侯^{ハレ}の^{ハレ}家^{ハレ}用^{ハレ}身^{ハレ}の^{ハレ}不^{ハレ}足^{ハレ}と^{ハレ}賄^{ハレ}つ^{ハレ}は^{ハレ}假^{ハレ}貸^{ハレ}
信^{ハレ}從^{ハレ}て^{ハレ}大^{ハレ}賈^{ハレ}巨^{ハレ}高^{ハレ}の^{ハレ}為^{ハレ}よ^{ハレ}唯^{ハレ}伏^{ハレ}せ^{ハレ}れ^{ハレ}止^{ハレ}み^{ハレ}と^{ハレ}得^{ハレ}ど^{ハレ}して
百姓^{ハレ}は^{ハレ}粟^{ハレ}欲^{ハレ}ら^{ハレ}う^{ハレ}と^{ハレ}き^{ハレ}ハ^{ハレ}子^{ハレ}姓^{ハレ}力^{ハレ}と^{ハレ}て^{ハレ}業^{ハレ}と^{ハレ}勉^{ハレ}じ^{ハレ}と^{ハレ}
常^{ハレ}は^{ハレ}匆^{ハレ}く^{ハレ}う^{ハレ}て^{ハレ}唯^{ハレ}凍^{ハレ}寒^{ハレ}と^{ハレ}免^{ハレ}ぎ^{ハレ}と^{ハレ}し^{ハレ}と^{ハレ}思^{ハレ}ふ^{ハレ}同^{ハレ}自^{ハレ}然^{ハレ}
と^{ハレ}都^{ハレ}門^{ハレ}子^{ハレ}出^{ハレ}て^{ハレ}賣^{ハレ}家^{ハレ}の^{ハレ}奴^{ハレ}と^{ハレ}ま^{ハレ}り^{ハレ}て^{ハレ}快^{ハレ}と^{ハレ}人^{ハレ}情^{ハレ}の^{ハレ}お^{ハレ}い^{ハレ}恥
と^{ハレ}と^{ハレ}り^{ハレ}出^{ハレ}と^{ハレ}成^{ハレ}つ^{ハレ}る^{ハレ}に^{ハレ}而^{ハレ}對^{ハレ}し^{ハレ}哀^{ハレ}慙^{ハレ}と^{ハレ}子^{ハレ}の^{ハレ}ご^{ハレ}と^{ハレ}
其^{ハレ}業^{ハレ}と^{ハレ}勤^{ハレ}め^{ハレ}て^{ハレ}有^{ハレ}餘^{ハレ}あり^{ハレ}有^{ハレ}餘^{ハレ}あり^{ハレ}て^{ハレ}後^{ハレ}國^{ハレ}内^{ハレ}の^{ハレ}人^{ハレ}み^{ハレ}と^{ハレ}改
て^{ハレ}外^{ハレ}境^{ハレ}の^{ハレ}奔^{ハレ}ら^{ハレ}と^{ハレ}と^{ハレ}江^{ハレ}邊^{ハレ}一^{ハレ}村^{ハレ}く^{ハレ}心^{ハレ}と^{ハレ}合^{ハレ}力^{ハレ}と^{ハレ}回^{ハレ}一^{ハレ}樂^{ハレ}土^{ハレ}の

地と^{ハレ}去^{ハレ}る^{ハレ}と^{ハレ}め^{ハレ}ば^{ハレ}活^{ハレ}り^{ハレ}ハ^{ハレ}較^{ハレ}て^{ハレ}外^{ハレ}と^{ハレ}都^{ハレ}門^{ハレ}山^{ハレ}野^{ハレ}河
は^{ハレ}由^{ハレ}て^{ハレ}地^{ハレ}力^{ハレ}と^{ハレ}致^{ハレ}し^{ハレ}國^{ハレ}は^{ハレ}益^{ハレ}あり^{ハレ}人^{ハレ}は^{ハレ}助^{ハレ}あり^{ハレ}と^{ハレ}え^{ハレ}る^{ハレ}と
ま^{ハレ}ハ^{ハレ}先^{ハレ}始^{ハレ}子^{ハレ}財^{ハレ}と^{ハレ}費^{ハレ}は^{ハレ}と^{ハレ}も^{ハレ}新^{ハレ}開^{ハレ}と^{ハレ}興^{ハレ}行^{ハレ}して^{ハレ}不^{ハレ}備^{ハレ}と^{ハレ}充^{ハレ}給^{ハレ}
し^{ハレ}め^{ハレ}る^{ハレ}姓^{ハレ}安^{ハレ}堵^{ハレ}し^{ハレ}凶^{ハレ}賊^{ハレ}も^{ハレ}健^{ハレ}闘^{ハレ}よ^{ハレ}及^{ハレ}ど^{ハレ}ん^{ハレ}ば^{ハレ}い^{ハレ}ら^{ハレ}る^{ハレ}辯^{ハレ}
倭^{ハレ}者^{ハレ}と^{ハレ}して^{ハレ}都^{ハレ}門^{ハレ}風^{ハレ}流^{ハレ}の^{ハレ}俗^{ハレ}を^{ハレ}か^{ハレ}り^{ハレ}子^{ハレ}は^{ハレ}唾^{ハレ}して^{ハレ}子^{ハレ}金^{ハレ}と^{ハレ}
獲^{ハレ}ら^{ハレ}る^{ハレ}証^{ハレ}薦^{ハレ}と^{ハレ}も^{ハレ}入^{ハレ}く^{ハレ}其^{ハレ}ハ^{ハレ}里^{ハレ}は^{ハレ}落^{ハレ}着^{ハレ}て^{ハレ}土^{ハレ}と^{ハレ}離^{ハレ}る^{ハレ}の^{ハレ}勤^{ハレ}
情^{ハレ}は^{ハレ}る^{ハレ}べ^{ハレ}く^{ハレ}は^{ハレ}弟^{ハレ}一^{ハレ}法^{ハレ}侯^{ハレ}の^{ハレ}家^{ハレ}風^{ハレ}ハ^{ハレ}領^{ハレ}ふ^{ハレ}と^{ハレ}お^{ハレ}り^{ハレ}て^{ハレ}都
門^{ハレ}と^{ハレ}末^{ハレ}と^{ハレ}れ^{ハレ}バ^{ハレ}入^{ハレ}く^{ハレ}通^{ハレ}と^{ハレ}學^{ハレ}び^{ハレ}藝^{ハレ}と^{ハレ}就^{ハレ}く^{ハレ}都^{ハレ}門^{ハレ}の^{ハレ}風^{ハレ}領
國^{ハレ}子^{ハレ}移^{ハレ}る^{ハレ}に^{ハレ}輕^{ハレ}爲^{ハレ}日^{ハレ}と^{ハレ}通^{ハレ}て^{ハレ}長^{ハレ}く^{ハレ}め^{ハレ}な^{ハレ}り^{ハレ}都^{ハレ}門^{ハレ}の^{ハレ}風^{ハレ}領^{ハレ}
移^{ハレ}る^{ハレ}に^{ハレ}質^{ハレ}素^{ハレ}自^{ハレ}然^{ハレ}と^{ハレ}り^{ハレ}都^{ハレ}門^{ハレ}ハ^{ハレ}文^{ハレ}代^{ハレ}して^{ハレ}久^{ハレ}く^{ハレ}在^{ハレ}る^{ハレ}に

危ぐらびきるるに君子幼より於門深宮婦人の手は長
ありて俗禮に拘り外親と事とし心多し肉熱し我は心
の民情形、穀辛若の俗より五穀辨へど四辨動じ僅
に書と誦し過れば揚々自得に早く嬖臣頑童を媚戲
まて金に痴と善成し適英特の資あると一たび國政を
執んと欲して外戚の政と馳らばく物態人情と解ざ
れは目前の苟且と務より日弊入るるに月弊あり月弊を
まがぶとくされども歲弊あり年弊を積て皆不便に
つまり國內擧て空虚なり是前は亦清基本と勤りよ意
なく習俗に纏繞があまり於是有志の法度醒然として

左右世官の國は益多きを横に依り處士浪客の世故に
老い事情に幹らると同じと欲すれば何國輕視して一
藩指揮と交ざると惜る故に人主は先言に邦の國賦と
知て國內の民情に達し自然の法律定規を立て基本と
為し一風俗の正しきと先とて之を但法律に一代より立
て右の律令より正しきとて之を法と爲し賢才を擧て良
者と爲し愚し夫人の智量に賢愚を察して各限あり賢
者ハ賢と進め愚人ハ愚と親じ是自然の姿あり唯我の
智を賢と及ぶといつども賢と得て臣とすれば是我の
智を及ぶより齊桓公ハ夷吾と臣とし蜀劉備ハ孔明と得

くらの頼桓公劉備ハ其智管仲諸葛亮あつは如どいふべし
賢と用て國と利とるハ我の智なりがなかり○是等ハ
然てつづきふと何り管子晏子あつの語を能くして
天下國家の事と治とつづよハあつざらざし況や後
の是等の事と紙上ハ議もつもの、浙漢籍のら義理
と讀むのらなきをて天下國家の事と我輩中ハ何り
うをまくおもひあハ陰陽師のめの上さるべも中
あつじ新井氏の書るものハ學問の事ハ供ハ謂つけ
やき又して何ゆね東坡のつひしボ多くにてその事
久しく言通あつらんハわりがさし叔世にむり遠き道

ハ初これぬ勢あるとこれと必べ初もよくまひあハ
腐儒あつは何れぞは愚庸の人きん孔子大聖さくもの何
らましめて容あつられどして道の丈あるととらると顔淵と
いこれし道の初るとつよハいづきの世とて初るまじ
まよハ何れぞ世よ初むとハならとあつぬとの初わ
里一あつ世界あつといふやありともあつといふも初る
づしとあつこの初ぬハあつ愛あり世の初もぬハこれま
でのよあるづし人の善あつふづき事とあつが依りて善
ハあハいふあるづきどなく人の善とあしは善と
あつあんのハあつのれが為の善といふづきづらぬわ

る事せまじとせよと昔はさきむの道ありてこれ
ぞ人の為ありぬ学ありてしきりて今日の学も先
よりぬ事のため有^んやありやとよくくむる日ありて
き事ぞかし夫老列^レ莊諸氏より始て佛氏^ノ学のぶと
明^レ述の事ありてとていつぶりてされど天下國家
の事の大經大法もむてはおぼはの事のごくにてそ
獨^レとほむるは昔ありともむむる者ありて
—管子のぶとさ區々の齊と補て天下諸侯と九合して
功ハ孔子既^ニ仁とて稱られき今も書とんりて政
事もあつてきりてぶき事なきもわらへども晏子の書

も亦これに次ありされど孔子の学はおける門人つ
よ從事せし業ハ詩書礼樂の道も仁と同一れとて
とあり又邦と治と同一韶舞とて答へられしと
晏子ハ時の賢大夫と稱せしとありて孔子の事とバ
禮樂と事とし驕奢のものとを君はいついしあは
は晏子禹の道と宗とし儉とていついし一狐裘三十年其
甘の近きおは解ゆるとていついし夫天子諸侯卿大夫
士庶をく儉とていついし此の節文ありあは
鳩^レ潔未判の事と似ていついし孔子の言ハ周公の才
美ありとも驕且各なりハ觀みていついしこの

驕ハ奢侈といちぐひ人の氣高く揚て人と見下し馬の
鬮蹄クヒハキの氣あつがふしくお世縁の人より病あり馬の
りも其病つらん時ハきこめてさく下より上へはと
の中がさきばせ氣つらんハ好くそとよりそのどけ
中さるべらんとして又桀紂のどとさと世の暗主とんる
くハ慈あり其智け諫と拒クサる足らるとんえ秦始皇の
如きも十三より位ハ昂ツキ三十はたるくわ時ハ六國と
おもせられせ智ハ賢人と侮られしおごのよして政事
も一絶ハ一斛の上書とんれしと中傳くしゆれりど
臨氣たつちしく己らんし仰とて古と仰とやど監首

と愚かし刑罰を嚴かし威武とてせと志所むべきと
の志わばよて志つても天下の財と府庫ハ聚ツキ歛められし
故ハ一代の功とむかしくしてさかどに併せられし天
下と二世あらざるに失きさりこれきど驕と者よのふ
き前あらざるやされバ國家と治め事業と勤あんとお
もたぐ先歴史の類と涉獵し古今の當否と鑑明をくし
その諺ハ歴ハ大學一書よよし四書小学よて誦ふ
ぞくふハ悉く志つるべくび眼とふきぶては物の
死らるべき理ハ万くよなき事也或曰管仲晏子は視て
治術と法ホウに何くぞはハ似たり夫齊管仲乃功と典ゆ

るとあるは唐魏徴の迹も不義あるごとくあれども蜀孔
明もおけるひより二子と比較はるるごとく昭烈帝乃復
興城あり也をより仁とほり今新野子り桀紂不逞乃
資と奉るハ為るすの言ふく其之と故伐せり乃非
み及ぎる蓋所好は阿るふどや且彼ひとの記載間々
替り出る少くは豈論定ととくよ是らむ耶何とすら
にわらうづる佐久間文明曰夫遂古者邈不可言可言
者堯舜禹湯文武周公孔子也儒者謂先聖而尊信者也而
其制治之初見者唐堯也堯之治天下也舉舜於側陋試旃
於百揆而遂讓天下是舉業所由起雖安其世然萬世之亂

階也其故何者惟其法傳而舉舉者非其人也且三王更作
崇變更貴建明争端斯肇讒妒斯兆小人多善人少常也善
人朋少小人黨多故善人多不得在位小人常在位易相或
以年或以月甚至以日後相者舉前相之非欲更張以取稱
譽故法日更改日紊偶舉得一賢百不肖並進賢者常以避
孽為力小人者常以害賢者為力自非聖王在上則下常争
然聖王不常出雖欲毋争奚得哉故居亂常多矣舉業者其
初志既在宰相人各懷覬覦之心人心之動騷亂之本也是
非舉業與貴變更之所致乎譬舉業者若天之下墜地之上
浮中間甚逼人各謂獲上也天浼地尤不亂而何僕焉管子

所謂四民四處各一其業見異物而不移焉定其心志之術
有故乎然則何以治天下也我邦神聖皇帝以知聖賢不
常出故不取賢能公卿大夫世祿官人家決不取諸於庶
人除官以秩一建純粹之法而使世世守之不變是以臣無
爭下無企望之心以不變更改不紊雖君不賢臣不肖以一
率遵法後王之政先王之政也所以恆治安也以法與以人
之異也法者常存人者不常賢所以我治彼亂也是以建制
之超軼於彼可知矣彼邦建五刑之目加以笞法雖公卿大
夫或斬之於市或尸之於朝朝授相夕謫之夕與金紫朝笞
之條理煩冗織法蛛網舉手觸法搖足陷罪刑愈多犯者愈

多其醜至宮刑谷我邦也公卿大夫罪不過竄錮庶人之
刑二放逐與死刑有稍二三差等耳且以公私二條判之犯
公法者不赦私者暨小過者措不訊其親戚規之而已故刑
甚少矣不似彼邦一朝而殺數十百人之慘也是刑罰之制
超軼於彼矣其他至冠昏喪祭之禮食飲器物之制咸勝彼
矣要之我制貴簡易彼制貴繁密簡易從繁密易悟治國
之原不出此數條而悉軼於彼非歟堯之讓也雖出於愛民
而大圯大倫矣國君死於社稷況至於天下乎雖非受於祖
宗之天下然天下重器以天下比之敝蹤其本既輕矣宜乎
後世生企望焉惠民不如有常之大惠者小也有常則民自

安而惠在其中矣。以惠民却詒孽于千歲大矣。堯之過我
邦學儒者亦為世計。或為識字聖人之道者。治天下之道。王
者之事也。以治天下之道為生計。其素違聖教。是舉業之姦。
流逮我邦也。文人詩人暨志博者。何訊才稱儒者。衝口說
仁義。說治國平天下。見其行不掩其言。行無過者。不免常人
凡俗不識一字。而有謹言馴行者。既出大言。而與此侶為伍。
亦非可耻之甚邪。且云我邦之治安。由彼道之行矣。不識
其實。而妄矯誣。可憎之甚者也。我邦入學者。凡七八歲。而
就師學。法先素讀。畢四書五經。或止。或聞講說。少辨字義。雖
長老之側說心法。說仁義。矯矯驕慢。益于眉間。雖教風之所

致大不好之事也。而非遂業。覺然更輟。不趨弓馬劍槍。或田
獵。或博奕。前所學者一朝而悉。厭矣。纔以知角字。比旃拱壁。
故世人以為童幼之具。是以倡之者一國。而不過數人言之
者。不出其徒之外。自公卿大夫。至士庶人。言之者甚。斯矣。故
其道也。於我邦甚微焉。非行也。彼邦王者自幼有師傅。而
教誨國有學鄉。有師人各游泳沐浴於其道也。可謂厚之至
者矣。是須恆保其恭。以莫頌壞固也。然居亂十而八九易代。
以十數焉。而其終也變。至為胡。其道不行之邦者。恆保恭行
之邦者。曷如斯壞也。雖癡人女子猶辨識焉。况格物致知者
乎。彼常云格物致知。其格物致知者不知真格物致知與否。

焉可為一笑而已彼既以百煉之道不能支其邦奚得謂以其萬分之一使我治安乎我邦之治安不可與彼同日而語也不藉彼之道炳乎其明如火矣孔子在世之時猶不能以其道化人安時况以其糟粕乎雖然於彼邦也尊信其教寔可也比我邦之教第二流而已我邦之教者以歌其道溫厚和平六義之中五典自存焉不屑屑名義而名義自然行矣善明其政迹自為教人儆而化矣其教不言與言之異爾我邦之制者素淳朴彼邦之制者素虛文素淳朴者其標自誠實也素虛文者其標自詐偽也其所隔雖一閭治亂之二途基于斯矣春秋二百四十二年之間弑君三十六

滅國五十餘秦漢而下至元明弑君殺親害子者谷計不可盡也所謂仁義之邦曷如此哉我邦元弘後亂三十餘年天正前後五六年所是為最保平之間源平相拒不延歲月如前九後三者以有憤於鎮臺盤據其封域以拒命耳非天下之亂也上古雖間有不逞之徒拒命不足煩一旅發即決已亦以不延歲月也故我邦居治十而八九是我邦非制治之至善哉儒云人之為人者五倫暨仁義爾以之教久人被其澤是非我道輔治哉其言似是然知以五倫仁義為聖人之道殊不知我邦素以五倫暨仁義為教矣夫倫理者自然之道有人茲有此道非若異水異州之始來而滋

蔓者也不啻我邦漢土雖夷狄亦有此道其建制之純粹
與醜之異耳周之時重九譯來獻者彼素非被聖教以有倫
理故感而來也是以可知我邦素以五倫暨仁義建制焉
請言其委曲儒道來我邦者肇於吉備公云如儒之言也
吉備公之前者是亡教也以所生之邦為不如夷狄無情謂之
何也神聖皇帝統御天下傳至于今是有父子之道也命
令行百官有秩是有君臣之道也貴嫡子賤庶子是有長幼
之序也百官和睦交際有儀是有朋友之道也建干支計日
月統御有紀有冠昏喪祭之禮有宮室之制有衣冠之制有
食飲器物之制事事咸簡易大不似漢制之煩冗而迂也吉

備公之前果無教也莫異鹿猪之羣居何以得為國矣彼所
宗之聖人之道者亞我神皇之教者大異夷狄之醜制然
其道甚駁也何者至殷湯夏桀不道以受命天極民為名起
兵伐之放桀於南巢泰然奪之天下至周武殷紂不道亦以
受命天極民為名起兵伐之斬紂頭繫旃於白旄泰然奪之
天下其為民實也使臣云君不道民不堪命恐顛墜祖宗之
天下冀孫讓於某地以某地為食邑也湯也擇桀之親戚立
之歸臣位於亳武也幸有三仁之在擇其中立之而歸臣位
於西周也名義與日月俱明矣若桀紂不聽孫讓則以兵安
置諸於小國立其親戚而歸於臣位也名義等明矣然不為

之顧奪之天下是以拯民為名其實為奪天下也孟子不言乎莫伊尹之志篡也以攝猶因其志不免篡况真奪乎於斯君臣之道始灰矣踰牆穿穴者自居惡而為惡湯武假美名而為惡其心劣穿踰者可鄙哉論者云舜禹之以讓得也湯武之以伐取也其歸一矣人之無理一胡至于此乎夫治教之原者分善惡之二而已不善善不惡惡也何由為治也宜哉後世無道常居亂也因莫善惡一定之分也以篡弑之人比旃舜禹所以道之不行也聞天為大惟堯則之又聞天工人其代之未聞以篡弑為天工則之孔子曰天何言哉四時行焉百物生焉天者雖善生生然無心不可知之者也故

聖人懼之王者在上而育眾庶者也是以倣天之生生而言則而已若湯武之言似帝者有耳目鼻口金冠玉衣而諄諄命之狀矣誣謾天甚者也又曰是所以聖人之為聖人也以為聖人之故為之是亦虛妄之絕甚者也堯舜人也桀紂人也其行以為至善之事故號曰旃聖人以為至惡之事號曰旃惡人焉弑逆者至惡之莫上者也而反曰旃聖人也桀紂之惡者劣湯武之惡也蓋曰旃賢人哉以至惡伐惡孟子所謂以燕伐燕不如之也其行也至惡其名也聖人何適從縱湯武之罪也譬其親不善而一家為之苦苦甚其子雖殺之可與又曰聖人以天下之心為心立武庚錄父封箕子微子宗

廟血食非滅之也是亦不倫之甚者也天下之心望桀紂而已非望夏殷之代也退桀紂立其親戚天下之心也其奪者非天下之心也湯武完輯之勛勞可觀也其識不及高氏幼子之見也人一日三食常也已三食而供父母以一食奪也焉得謂養也封武庚錄父封箕子微子不克一食也議論家曰某者小人亡論某者賢故論之責備於賢者也是言寔然以此觀之湯武果賢而為之也其責殊重矣非後世為篡弑者之類也然極口罵後世反聽湯武是冠屨倒施也孟子亦云聞誅一夫之紂矣未聞弑君也是孟子之私言也紂雖不道君也湯武雖賢臣也君臣者公名一夫非公名也秦誓論

告之言不得如此不言非公言也孟子應問之辭力欲掩湯武之罪者也仲尼正名之言果非與宗社至重箕子微子侶相圖屏紂也宗社全而永為周之天下然不為之以其力不足與或恐亂人臣之分之故也力不足也以人心未離也恐人臣之分也雖臣親戚也親戚猶不為之況武王乎况奪乎其罪不容誅也楚莊王滅陳也遂欲縣之而容一言之諫復之不取也可謂湯武者楚莊之罪人也非與世之眩于湯武者以治民之可法也湯武之狡黠知不治不為用故善治可謂詭譎之雄者否盡返其親戚其不返者克己欲也淮南子云夫狐之捕雉也必先卑體彌耳以得其來也彼嚴恭寅畏

夙夜畏威者，卑體彌耳，以潤色譎也。其詭譎出新莽之上者也。莽者奪來者也。湯武者，往奪者也。其間亦若干莽也。奪之後以仁治民，是亦一湯武也。然以虐民遂敗，智與不智之間而已。於其弑逆也，一矣。假令有千堯萬舜之治，豈蔽弑逆之罪哉？孟子行一不義，殺一不辜，而得天下，皆不為之也。者非聖人之品第乎？以弑逆不為不義，烏名義大廢矣。宜乎周之諸侯倣湯武之轍，弑逆猶稱聖人，況敵國乎？於此彼我欲相奪攻伐大起，遂為戰國，鞠為胡履霜之警，可恐哉。是湯武施教於上，而戰國受法於下也。當周之末，孔夫子者，懷不訾之才，傑出於其間，須筆誅湯武之罪，以明大義，一洗道穢垢。

惜矣哉！其慮不出於此，反謂祖述堯舜，憲章文武，是以牛矢廁階珠，非邪？於此五典再灰矣。立制之原，雖以孝君臣之道之為重，孝者教也，君臣之道者制也。無君臣之道，不能為國。不為國，以人不得立，故君臣之道之為重也。君雖殺其親，其子不得以為讐。君臣之道重也。君臣之道既泯矣，所以為胡也。是以我邦諸侯或不道為其臣者，恐併家國，失之或幽其君而立其親戚，不獲幽其君而代立也。儻有代立之圖，上聞其罪及三族，幸以其初不出弑逆之聖人，君臣之道分明而不擾。儻縱之禍，亂胚胎于此之故也。初大王以西伯之有聖瑞，欲立季歷，以及西伯、泰伯、仲雍知之走，荆蠻以避于季歷。

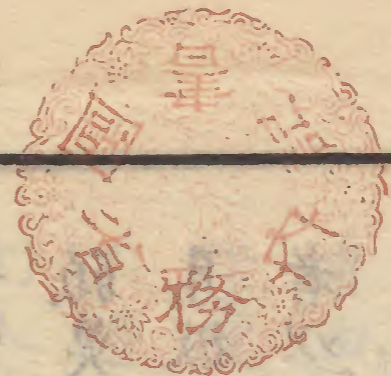
仲尼以稱焉民不得稱泰伯之賢可知立泰伯也何害西伯之為聖欲及西伯者欲大門戶也闕愛於二子使二子不得事父母其仁何處有也叛心始於大王武王終之也於此父子之道再泯矣非若堯讓舜者也堯之讓也雖詒孽於後世至大而其志為天下公也大王者為門戶私也其異堯萬萬圯大倫之事集於一門可謂罪人之祖也大抵漢土之常亂者由君威之弱民威之強也其素出堯之讓與湯武之伐及崇變更貴虛文矣西伯之舉呂尚也湯之舉伊尹也尊之則不得不多祿遂習制祿君之祿十分之一為卿之祿也祿多則人多人多則威強自然之勢也故我邦制祿君之祿五

十分之一或百分之一為卿之祿也是以君威常強臣威常弱莫手反遣體之憂矣堯典曰惟狂思為聖惟聖不思為狂焉彼我之涇渭思茲昭昭矣何俟余贅言質彼以彼言莫據者以我邦之明法斷之焉

成形圖說卷之六終

五洲圖說卷之六

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '五洲圖說' and '卷之六'）



（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '皇朝' and '文庫'）

